

革新的研究開発推進プログラム (ImPACT)

PM 応募者提出書類様式

【注意事項】

- 提出日時点における情報を記入すること。
- 原則として、文字サイズについては10ポイント、フォントについては、日本語はMSゴシック、英語はCenturyを使用すること。また、行間は1行とすること。
- 太字・下線及び図画の使用については、それぞれ「※文字装飾可」、「※図画可」の記載がある項のみ認める。なお、図表に用いられているものを除き、文字は全て黒色とすること。
- 各表の縦幅は必要に応じて変更を認めるが、横幅は変更を認めない。
- 様式1-1は1頁とすること。様式1-2、様式1-3はそれぞれ2頁以内とすること。各項目の記載量は特に指定がない項目については任意。
- 様式2は合計10頁以内とすること。各項目の記載量は任意。
- 様式3の記載量は任意。
- 締切後の書類の修正は、一切認めない。
(ただし、詳細書類における概要の修正は認める。)

整理番号： _____

様式 1-1

研究開発プログラム構想の概要（様式 1-2 及び様式 1-3 のサマリー）

| | |
|----------------|--|
| PM 応募者 | 氏名（現所属機関、職名） |
| 研究開発プログラム名 | |
| 該当テーマ名 | ※総合科学技術会議の設定した次の5つのテーマのうち、最も関係の深いものを1つ記載 |
| キーワード | ※出口、コンセプト、技術等、プログラム構想の特徴を表すキーワードを3つ記載 |
| 研究開発プログラム構想の概要 | ※端的に記載してください。 |

| 背景 | 非連続なイノベーションのポイント （従来技術の到達限界等） | 期待される産業や社会へのインパクト |
|-------------------------------------|---|---|
| ※プログラムを構想するに至った背景や問題意識を端的に記載してください。 | ※他の制度では取り組めないようなハイリスク・ハイインパクトなチャレンジであることを端的にアピールしてください。 ※従来技術の到達限界および本技術の飛躍度なども併せて分かりやすく記載して下さい。 | ※産業や社会のあり方の大きな変革をどのようにもたらすのか、端的にアピールしてください。 |

※研究開発プログラム構想の概要について、非連続なイノベーションを目指すハイリスク・ハイインパクトなチャレンジであること、期待される産業や社会へのインパクトが一見して分かるよう工夫しつつ、産業や社会のあり方を変革するに至るまでのシナリオ等も考慮にいれて、簡潔に図示ください。

| | |
|---|---|
| <p>【予想されるリスク、達成の困難度】</p> <p>※端的に記載してください。</p> | <p>【困難を克服する方策（成功仮説）】</p> <p>※左欄に示されるようなハイリスクにも関わらず、克服が可能であるという合理的な成功仮説を端的に記載してください。</p> |
|---|---|

【研究開発プログラム構想の展開体制】

※我が国のトップレベルの研究開発力および様々な知識を結集することが分かるよう、主要な研究開発機関、同機関の役割、同機関から参加予定の研究開発責任者について、簡潔に図示ください。（上述のハイリスク・ハイインパクトなチャレンジがどこにあるのか分かるよう記載ください。）

※「参加見込み機関」には、〇〇株式会社、〇〇大学、独立行政法人〇〇研究所、NPO 法人〇〇センターのように機関名を記載ください。研究開発責任者の所属が大学の場合、「部署名」には学科等の名称を記載ください。

```

    graph TD
      PM[PM] --- ARB[分析・解析B (x機関)]
      PM --- TechA[技術A (社) (社) コンベ方式]
      PM --- TechB[技術B (大・教授)]
      PM --- TechC[技術C (x社) (大・教授) 共同研究]
      PM --- Sys[システム化 (社)]
      PM --- Eval[評価・分析A (機関)]
      ARB <--> TechA
      ARB <--> TechB
      TechA <--> TechB
      TechA <--> Sys
      TechB <--> Sys
      TechC <--> Eval
      Sys <--> Eval
      subgraph RiskResponse [高い規制リスクに対応]
        TechC
        Sys
        Eval
      end
  
```

革新的・非連続的なコンセプト提示

※様式 1-1 は 1 頁を超えないこと

PM 応募者の基本情報

| PM 応募者の基本情報 | |
|---|--|
| (フリガナ) 氏名 | |
| 国籍 | |
| 所属機関名及び役職 | |
| 住所又は居所 | |
| 略歴 | |
| <p>【学歴、職歴、その他特記すべき活動歴に分けて記入】</p> <p>学歴（大学卒業以降）</p> <p>（記入例）</p> <p>平成〇〇年 〇〇大学〇〇学部卒業</p> <p>平成〇〇年 〇〇大学大学院〇〇研究科修士課程〇〇専攻修了</p> <p>平成〇〇年 〇〇大学大学院〇〇研究科博士課程〇〇専攻修了</p> <p>平成〇〇年 博士（〇〇学）（〇〇大学） 取得</p> <p>職歴（主な職歴と職務内容）</p> <p>（記入例）</p> <p>平成〇〇年～〇〇年 〇〇株式会社〇〇開発部（〇〇〇〇〇〇について開発）</p> <p>平成〇〇年～〇〇年 〇〇大学特任准教授（〇〇〇〇〇〇に関する研究に従事）</p> <p>平成〇〇年～〇〇年 〇〇株式会社〇〇事業部（〇〇〇〇〇〇事業担当）</p> <p>その他特記すべき活動歴（社会貢献活動、国際活動等本事業に関わる特記事項があれば任意記入）</p> <p>（記入例）</p> <p>平成〇〇年～〇〇年 〇〇〇ベンチャーキャピタル株式会社技術諮問委員</p> <p>平成〇〇年 国際〇〇〇学会〇〇分科会運営委員</p> | |
| PM 応募者の資質・実績に関する情報 | |
| <p>【事業化を指向した研究開発や先端技術を核とした事業化のマネジメントに関する主な経験・実績】</p> <p>※文字装飾可</p> | |

※様式 1-2 は 2 頁を超えないこと

【本事業が求める PM として応募者が適任であるとする理由】

※文字装飾可

推薦者について

※推薦状提出予定者（複数名）の氏名、所属、職名等を記載ください。

兼任について（※兼任を希望する場合のみ記載）

※Ⅲ. 1. (1) ④の応募要件を踏まえつつ例外的に兼任が必要な理由を明示すると共に、エフォート比率、クロスアポイントメント制度の有無・制度制定見込み、兼任について所属機関が許可する見込み等を簡潔に記載ください。

他制度での助成の有無（※一部の研究開発を PM 自らが実施するために兼任を希望する場合のみ記載）

※現在受けている、あるいは申請中・申請予定の国の競争的資金制度やその他の研究助成等制度での助成等について、制度名ごとに、研究課題名、研究期間、役割、研究費の額、エフォート等を記入してください。記入内容が事実と異なる場合には、採択されても後日取り消しとなる場合があります。

※様式 1-3 は 2 頁を超えないこと

様式 1-3

研究開発プログラム構想の概要

| |
|--|
| 研究開発プログラム名 |
| ※簡にして要を得た名称を工夫すること。 |
| 該当テーマ |
| ※総合科学技術会議の設定した次の 5 つのテーマのうちどれに該当するかを記載。 ①資源制約からの解放とものづくり力の革新 「新世紀日本型価値創造」 ②生活様式を変える革新的省エネ・エコ社会の実現 「地球との共生」 ③情報ネットワーク社会を超える高度機能化社会の実現 「人と社会を結ぶスマートコミュニティ」 ④少子高齢化社会における世界で最も快適な生活環境の提供 「誰もが健やかで快適な生活を実現」 ⑤人知を超える自然災害やハザードの影響を制御し、被害を最小化 「国民一人一人が実感するレジリエンスを実現」 |
| キーワード |
| ※出口、コンセプト、技術等、プログラム構想の特徴を表すキーワードを 3 つ記載 |
| 研究開発プログラムの概要 |
| ※400 字程度で要点を記載ください。 |
| テーマへの貢献（産業や社会のあり方の大きな変革） |
| ※提案する研究開発プログラムが該当テーマに対してどのような貢献をするのか（産業や社会のあり方の大きな変革をどのようにもたらすのか）、簡潔に記載ください。 ※文字装飾可 |

制度との整合性①（ハイインパクト）

※他の制度では取り組めないようなハイリスク・ハイインパクトなチャレンジをするものであること（漸進的ではなく、非連続なイノベーションを目指すものか）を簡潔に記載ください。

※文字装飾可

制度との整合性②（研究開発力等の結集）

※我が国のトップレベルの研究開発力および様々な知識を結集できるものであること（研究開発プログラムの実施体制、参加者の見通しなど体制構築の実現可能性）を簡潔に記載ください。

※文字装飾可、図画可

現状分析／困難／困難を克服する方策

※提案する研究開発プログラムに関し、市場動向・社会的要請や研究開発・技術動向など国内外の状況を現状分析し、現在直面している困難や直面することが予想される困難は何なのかを明確化した上で、その困難を本研究開発プログラムによりどのように克服するのか、簡潔に記載ください。

※文字装飾可、図画可

プログラム終了時の成功判断の基準

※研究開発プログラムの終了時点での成功判断の基準は何か簡潔に記載してください。

※様式2は10頁を超えないこと

様式2

1. PM 応募者の基本情報

| PM 応募者の基本情報 | |
|--|-----------------------|
| (フリガナ) 氏名 | |
| 国籍 | |
| 所属機関名及び役職 | |
| 住所又は居所 | |
| 連絡先 | 電話番号： e-mail アドレス： |
| 略歴 | |
| 【学歴、職歴、その他特記すべき活動歴に分けて記入】 ※概要書類（様式1-2）に記載した内容と同じ。 | |
| 学歴（大学卒業以降） （記入例） 平成〇〇年 〇〇大学〇〇学部卒業 平成〇〇年 〇〇大学大学院〇〇研究科修士課程〇〇専攻修了 平成〇〇年 〇〇大学大学院〇〇研究科博士課程〇〇専攻修了 平成〇〇年 博士（〇〇学）（〇〇大学） 取得 | |
| 職歴（主な職歴と職務内容） （記入例） 平成〇〇年～〇〇年 〇〇株式会社〇〇開発部（〇〇〇〇〇〇について開発） 平成〇〇年～〇〇年 〇〇大学特任准教授（〇〇〇〇〇〇に関する研究に従事） 平成〇〇年～〇〇年 〇〇株式会社〇〇事業部（〇〇〇〇〇〇事業担当） | |
| その他特記すべき活動歴（社会貢献活動、国際活動等本事業に関わる特記事項があれば任意記入） （記入例） 平成〇〇年～〇〇年 〇〇〇ベンチャーキャピタル株式会社技術諮問委員 平成〇〇年 国際〇〇〇学会〇〇分科会運営委員 | |
| PM 応募者の資質・実績に関する情報① | |
| （事業化を指向した研究開発や先端技術を核とした事業化のマネジメントに関する主な経験・実績） ※概要書類（様式1-2）に記載した内容と同じ。 ※文字装飾可 | |

PM 応募者の資質・実績に関する情報②
(本事業が求める PM として応募者が適任であると考え理由)

※概要書類(様式 1-2)に記載した内容を詳述ください。
※文字装飾可

※PM 応募者が、事業化を指向した研究開発活動や先端技術を核とした事業化活動に卓越した構想力、知見、企画力及びマネジメント能力を有することを証明するため、後述する様式にて複数名からの推薦状を提出してください。なお、審査過程において、推薦状提出者に対してヒアリング・電話等による調査を行う可能性がありますので、調査に協力いただける方からの推薦状を提出願います。(推薦者のうち 1 名は、現在の所属機関以外の機関に属する者とする。)

兼任について (※兼任を希望する場合のみ記載)

※Ⅲ. 1. (1) ④の応募要件を踏まえつつ例外的に兼任が必要な理由を明示すると共に、エフォート比率、クロスアポイントメント制度の有無・制度制定見込み、兼任について所属機関が許可する見込み等を簡潔に記載ください。

他制度での助成の有無 (※一部の研究開発を PM 自らが実施するために兼任を希望する場合のみ記載)

※現在受けている、あるいは申請中・申請予定の国の競争的資金制度やその他の研究助成等制度での助成等について、制度名ごとに、研究課題名、研究期間、役割、研究費の額、エフォート等を記入してください。記入内容が事実と異なる場合には、採択されても後日取り消しとなる場合があります。

帰国予定について (※応募時において PM 応募者の居所が海外である場合のみ記載)

※応募時において、PM 応募者の居所が海外である場合は、採択された場合の帰国スケジュール(見込み)を記載ください。

2. 研究開発プログラム構想

①基本事項

| |
|---------------------------------------|
| 研究開発プログラム名 |
| ※概要書類（様式1-3）に記載した内容と同じ。 |
| 該当テーマ |
| ※概要書類（様式1-3）に記載した内容と同じ。 |
| キーワード |
| ※概要書類（様式1-3）に記載した内容と同じ。 |
| 研究開発プログラムの概要 |
| ※概要書類（様式1-3）に記載した内容と同じ。 |
| テーマへの貢献（産業や社会のあり方の大きな変革） |
| ※概要書類（様式1-3）に記載した内容を詳述ください。 ※文字装飾可 |
| 制度との整合性①（ハイインパクト） |
| ※概要書類（様式1-3）に記載した内容を詳述ください。 ※文字装飾可 |

制度との整合性②（研究開発力等の結集）

※概要書類（様式 1 - 3）に記載した内容を詳述ください。
※文字装飾可、図画可

現状分析／困難／困難を克服する方策

※概要書類（様式 1 - 3）に記載した内容を詳述ください。
※文字装飾可、図画可

プログラム終了時の成功判断の基準

※概要書類（様式 1 - 3）に記載した内容を詳述ください。

②推進計画

産業や社会のあり方を変革するシナリオ

※提案する研究開発プログラムが将来の産業や社会のあり方を変革するに至るまでのシナリオを記載してください。同シナリオは、本事業での支援を受ける実施期間内に限らず、実際に産業や社会のあり方を変革するまでの過程を大まかな目標年次を挙げながら記載してください。

※ここで、本事業での支援を受ける実施期間内のシナリオに関しては、研究開発機関にどのような研究開発をいつ実施させるのか、適切にマイルストーンを設定し、具体的な進捗スケジュールを記載してください。（なお、本制度の主旨に鑑み、ここで記載した通りの硬直的な事業運営を求めるものではなく、成果達成の上で最適となるよう柔軟な事業運営が認められます。）

※文字装飾可、図画可

実施期間及び必要経費概算

実施期間：平成26年度～平成〇〇年度

必要経費概算：〇〇億円（H26：〇億円、H27：〇億円、H28：〇億円、…）

研究開発実施体制

※確実に参加が見込まれる主要な研究開発機関、同機関の役割、同機関から参加予定の研究開発責任者について簡潔に記載ください。詳細は3. において記載ください。(研究開発プログラム構想が、我が国のトップレベルの研究開発力および様々な知識を結集したものであることを判断する上で重要と考えられる主要機関については漏れなく記載することが望ましい。)

※PM は、採用決定後に、研究開発プログラム計画の作り込みの過程で、ここに記載された研究開発機関に限らず、改めて最適な研究開発機関を選定することができる。ただし、ここで記載した機関が実際には参加しない場合、研究開発機関選定手続において求められる有識者会議による確認が得られないことがあり得る。

※優れた人材や技術を結集するという ImPACT の趣旨を鑑み、PM との利害関係を画一的な基準によって判断し、研究実施機関から予め一律に排除してしまうことは適切でないことから、PM は当該研究実施機関との間で一定の利害関係があったとしても、採択する必要性、合理性、妥当性等を推進会議が認めれば、その範囲で研究チームに加えることが認められる。ここで対象とする利害関係者の定義は以下の通り

(a) PM 自身が研究担当者となる場合。

(b) PM と親族関係にある者もしくはそれと同等の親密な個人的関係。

(c) PM の兼業元あるいは出向元である大学、独立行政法人等の研究機関に所属している者。あるいは、同一の企業に所属している者。

(d) PM と緊密な共同研究を行っている者。または過去5年以内に緊密な共同研究を行った者。

(e) 過去に通算10年以上、PM と「密接な師弟関係」あるいは直接的な雇用関係にあった者。

(f) その他推進会議が利害関係者と判断した場合

※文字装飾可、図画可

主要な研究機関の役割・必要経費等

| 研究開発機関 | 責任者 | 研究開発プログラム構想における役割 | 経費概算 (億円) | 利害関係 (有・無) |
|--------|-----|-------------------|--------------|---------------|
| | | | | 有・無 |
| | | | | 有・無 |
| | | | | 有・無 |

③概要資料（様式 1－3）からの主要な変更事項

※ここまでに記載した事項について、概要資料（様式 1－3）の提出後に関係機関との協議等を重ねた結果として、概要資料（様式 1－3）から変更が生じていれば、主要な変更事項と変更理由について記載ください。概要資料（様式 1－3）の提出後、本詳細資料提出までの間の PM 応募者の努力により、研究開発プログラム構想が進化・深化し、建設的な変更事項が発生することは、当然に想定されています。

④研究開発プログラム構想の作り込みに係る計画

※PM に採用後に研究開発プログラムを作り込むために行う取組みについて、構想や計画を記載してください。（通常、シンポジウム、ワークショップ、アイデアコンテスト等の手法が想定されますが、これに限らず、我が国のトップレベルの研究開発力および様々な知識を結集して産業や社会のあり方の変革を実現するという本事業の主旨に則り、PM のイニシアティブによる挑戦的な作りこみ活動が提案されることを期待します。）
※文字装飾可、図画可

3. 研究開発プログラムへの主要な参加予定機関に関する情報

※PM 応募者が提案する研究開発プログラムに確実に参加が見込まれる主要な研究開発機関に関して作成すること。（ここに記載する以外の参加機関があることを妨げないが、研究開発プログラム構想の妥当性を判断する上で重要と考えられる主要機関については漏れなく記載することが望ましい。なお、ここで記載した機関が実際には参加しない場合には、研究開発機関選定手続において求められる有識者会議による確認が得られない場合がある。）

※主要な参加予定機関が複数ある場合は、本フォーマットをコピーし、機関毎に作成すること。

①参加予定の主要な研究開発機関

| | |
|-----------------------|--|
| 機関名 | |
| 参加部署名 | ※機関内の事業部名、学科名などを記載ください。 |
| 機関・部署の概要 | |
| 実績及び役割 | ※参加機関がどのような能力・実績を有し、どのような貢献が可能なのか、研究開発プログラムにおける役割を記載ください。 |
| 特記事項（該当の場合のみ） | |
| PM 応募者に関する機関（該当の場合のみ） | ※PM 応募者に関する機関の場合、当該機関を選定することが、テーマに示された産業や社会のあり方の変革の実現にとって真に必要な理由を記載ください。 |
| 国外の機関（該当の場合のみ） | ※国外の機関の場合、当該機関を選定することが、テーマに示された産業や社会のあり方の変革の実現にとって真に必要な理由を記載ください。 |

②上記①の機関におけるプログラムに参加予定の研究開発責任者（1名）の基本情報

| | |
|---|-------------------------------------|
| (フリガナ) 氏名 | |
| 所属機関名及び役職 | |
| 略歴 | |
| 現在の研究開発との関係 | |
| <p>※現在実施している研究開発の概要を記載。 ※現在、国の事業等において研究開発を実施している場合は、当該事業名、研究テーマ、実施期間及び、本プログラムに採択された場合における、現在実施している研究開発の取扱（整理・調整等）について記載。</p> | |
| プログラムへのエフォート（1） | （全仕事時間に占める、プログラムの研究開発活動時間の割合）% |
| プログラムへのエフォート（2） | （研究開発活動時間全体に占める、プログラムの研究開発活動時間の割合）% |

4. 連絡先その他

| | |
|-----------|---|
| 本件に関する連絡先 | (所在地) ※本件に関する窓口は一箇所とすること。 〒 (TEL) (FAX) (e-mail) (担当者) |
| 備考 | ※留意事項等があれば記載。 |

推薦状(日本語)

| | |
|--|---|
| (フリガナ) 被推薦者の氏名 | |
| 所属及び役職 | |
| 推薦理由 | |
| <p>(1) 被推薦者が、事業化を指向した研究開発活動や先端技術を核とした事業化活動に卓越した構想力、知見、企画力及びマネジメント能力を有すると考える具体的な理由は何ですか。</p> <p>(2) その他特記事項</p> | |
| (フリガナ) 推薦者氏名 | |
| 所属及び役職 | |
| 推薦者の連絡先 | (TEL) (FAX) (e-mail) (担当者) 連絡先が推薦者本人以外の場合は記入 |

※PM 応募者が、事業化を指向した研究開発活動や先端技術を核とした事業化活動に卓越した構想力、知見、企画力及びマネジメント能力を有することを証明するため、本様式にて複数名からの推薦状を提出してください。なお、審査過程において、推薦状提出者に対してヒアリング・電話等による調査を行う可能性がありますので、調査に協力いただける方からの推薦状を提出願います。

Recommendation (English)

Recommendation for Mr./Ms.

Title:

(1) Reason he/she has the ability of planning and management on the business-oriented R&D activities or on the business activities based on cutting-edge technology.

(2) Other remarks, if necessary.

You can use your own format with including the information presented in this format.

| | |
|---------------------|--|
| Your Name | |
| Title | |
| Contact Information | (TEL) (FAX) (e-mail) (Person in charge) |